社会貢献フォーラム in 群馬

社会貢献がつなぐ未来

～地域人材育成と地方創生～

若者の県外流出が大きな問題となる中、地域の発展のためには若者の存在が欠かせない。社会貢献を切り口に地域人材育成と地方創生について考える社会貢献フォーラム「社会貢献がつなぐ未来」（全日本社会貢献団体機構、上毛新聞社、全国地方新聞社連合会　主催）が12月8日、群馬県公社総合ビル（前橋市大渡町）で開催された。元ノルディック複合選手でスポーツキャスターの荻原次晴さんのトークショーとパネルディスカッションに、約260人の来場者が耳を傾けた。

スポーツキャスター **荻原 次晴** 氏

1969年群馬県草津町生まれ。双子の兄・健司とともにノルディック複合選手として頭角を現す。94年からW杯に参戦し、世界選手権で団体金メダルを獲得。長野五輪に出場し入賞。引退後、スポーツキャスターとしてメディアに多数出演。「次晴登山部」を発足し、日本百名山登頂を目指す。

第1部　トークショー

次に晴れれば、それでいい

兄と間違えられる悔しさバネに夢実現

村松　荻原さんは、双子同士でライバル関係でしたね。

荻原　最初は僕の方が成績が良く、初めて全国大会に行ったのも僕でした。健司としては弟に先に全国大会に出場されたということがすごく悔しかったらしく、それからものすごく練習を始め、あれよあれよという間にオリンピックの金メダルを獲得したんです。一方、僕はだいぶ水を開けられてしまいました。

村松　そっくりでどっちがどっちか分かりませんし（笑）。

荻原　そう、どっちでもいい（笑）。自分ができないことは健司がやり、健司ができないことは僕がやればいいという気持ち。

村松　支え合う関係でもあるんですね。

荻原　一時期、僕が心を開けず、関係がギクシャク。アルベールビル五輪で健司が優勝すると、一躍大フィーバー。僕を健司だと思ってサインや写真撮影を求める人に、「弟の次晴です」と言うと、「ちぇっ！」「なぁんだ」（笑）。それは人間の尊厳に関わる問題で、僕は健司や双子に生んだ両親を勝手に恨んでいました。いつか僕もオリンピックに出て、見返してやりたいと思って猛練習。94年のリレハンメル五輪出場を逃し、最後のチャンス、98年の長野五輪になんとか選ばれました。調子が悪いまま本番を迎え、日の丸を持った3万人の観衆を前に、「失敗したら日本にはいられない」という悲壮な気持ちでジャンプ台へ。これでは良いジャンプができるはずがないと思い、頭から突っ込んでやろうと飛び出したら、ジャンプに関しては、健司よりも遠くへ飛ぶことができ、結果として健司とともに入賞することができました。

夢に向かって頑張る過程が重要

村松　子どもたちに五輪の意義や夢を伝えるお仕事もなさっていますね。

荻原　全国の学校を回って、オリンピックが伝えたい意義を話します。出場を目指して頑張っている人は大勢いるんですけど、その夢を掴める者は極めて少数。夢に向かって努力を続ける過程が最も大切だと伝えています。

村松　そこが社会貢献活動や人材育成につながるんですね。登山部もつくり、次々にチャレンジしています。

荻原　次の目標は2020年、東京オリンピックでキャスターの座をつかむことです。強力なライバルがいますが、頑張りたいと思います。

第2部　パネルディスカッション

社会貢献がつなぐ未来

～地域人材育成と地方創生～

共愛学園前橋国際大学の社会貢献と地域人材育成プログラム

村松　県内の地域人材育成や活性化、社会貢献活動について紹介しましょう。

大森　前橋国際大学はアクティブラーニングの手法を取り入れ、地域や海外での実践的な学びの場も多数用意しています。今日は学生による社会貢献を通して、学びの取り組みを報告します。

新井（学生）　学生が地域と関わり、地域を元気にすることを目的とした「共愛COCO」では、高齢化の進むみなかみ町の中山間地で高齢者のお手伝いをする活動に携わりました。戸別訪問や除雪作業などの活動がみなかみ町社会福祉協議会に認められ、学習支援教室がスタート。福祉支援が必要な中学生を対象に学習面、生活面での支援を行っています。生徒の性格や特徴を考慮しながら指導に取り組みます。小さい時に地域に支えられて育った子どもは、大人になって自分も地域に何かしてあげたいと考えるのではないかという視点から、将来的に地域貢献する子どもを育てていると考えています。活動を通して、地域を自分事化できるようになったと思います。

共愛学園前橋国際大学学長 **大森 昭生** 氏

安済（学生）　私が参加した環境ネットワークキャンパスは、群馬大学、高崎経済大学、早稲田大学と本学の学生が、群馬が誇る、サンデンの若手社員の方々と協力して、地域の課題や環境問題について取り組む活動です。全体で取り組む震災復興プロジェクトでは、東日本大震災以降、宮城県東松島市で森の間伐を行いました。チームに分かれて取り組んだ環境教育プロジェクトでは、子どもの環境意識を高めるワークショップや授業を実施。風力発電の体験や再生可能エネルギーの重要性などを子どもたちに学んでもらいました。活動を通して、課題を見つけ最後まで成し遂げる課題解決力、仲間と協力して努力するチームワーク力、自ら問題を見つけ行動する主体性といった社会人基礎力が身につき、地元群馬への愛着や地域づくりへの関心も生まれ、将来は地元群馬に貢献できるような仕事に就きたいと考えています。

共愛学園前橋国際大学3年 **新井 竜也** さん

荻原　ふるさと群馬への郷土愛というのは、いかに生まれたんですか。

新井　自分の学びが地域のためになっているという実感が湧き、そこから「何かしていきたい」という郷土愛につながったのではないかと思っています。

安済　大学側は地域に密着するサポートをしてくれるので、私も何かに取り組みたいという思いに駆られ、ボランティア活動に取り組んだ過程を通して郷土愛が生まれました。

共愛学園前橋国際大学3年 **安済 茜** さん

自己有用感を生む社会貢献が人材育成の場に

森山　群馬県遊技業協同組合は、社会的責任を自覚し、少年の健全育成、社会福祉、災害救済、地域貢献、防犯暴力排除等々の社会に貢献する活動を行ってきました。1996年に県内遊技場で発生した「ゆかりちゃん誘拐事件」について犯人早期検挙に協力すべく、捜査特別報奨金の提供や情報提供を呼びかけるチラシ配布・ポスター掲載を継続。また、青パトによる小学校周辺の防犯パトロールや暴力団排除、特殊詐欺被害対策も推進。振り込め詐欺根絶サポーター養成講座を開催し、認定された店長らが店内で注意喚起の声かけなどを行っています。詐欺注意喚起広告の折込チラシの配布も継続的に行い、群馬県警から群馬県遊技業協同組合に感謝状が授与されました。福祉施設への車椅子寄贈、児童養護施設、生活困窮児童等への寄付金も行っています。

群馬県遊技業協同組合理事長 **森山 秀夫** 氏

関口　住民が社会貢献に取り組む団体としてNPO法人があります。一つの事例として、子どもが病気になったときの仕事を持つ親の助けになる病児保育を取り上げたい。病児保育は大都市以外では未整備の地域が多く、欠勤や早退で対応することとなり、地味ではあるが重要な課題。解決に至る道は、NPOや地元医療機関、保育士、場所提供者など多様な取り組みをマッチングする中から生まれます。ニーズをコーディネートする力が必要です。

上毛新聞社取締役編集主幹 **関口 雅弘** 氏

村松　森山さんは理事長として、社会貢献活動について考えることはありますか。

森山　全ての国民が幸せに暮らす権利を有する。その実現は国家・社会システムがやるべきものですが、手が届かないことは必ずある。そこに私たちが手を差し伸べることが重要。幸せの一方には必ず悲しみがある。自分が幸せであればあるほど対極にある不幸せについて、思いをはせることが大変重要だと思います。

大森　森山理事長や学生たちの話を聞き、そういったマインドを持った人に育てていくこと自体が、地域貢献だと感じますね。社会貢献は自己有用感を育む。社会貢献を人が成長する学びの機会と捉え直すことができるならば、社会貢献の持続可能性が高まるのではないでしょうか。

荻原　五輪で嬉しかったのは入賞よりも、いただいた数々の手紙。「不登校ですが、荻原さんの頑張る姿を見て明日から学校に行きます」といった内容の手紙がすごく多かった。僕の挑戦が誰かの目に止まり、力になれた。まさに自己有用感を感じました。

村松　生きることは居場所をつくることだとずっと感じています。「ありがとう」と言われる言葉が、自分の足を一歩前に出してくれる原動力になると思います。社会貢献は自分のためにもなると思いました。このフォーラムが社会貢献活動参加のきっかけになればと思います。

アナウンサー・エッセイスト **村松 真貴子** 氏

私たちは、社会に役立ち必要とされる事業や活動をサポート・応援しています。

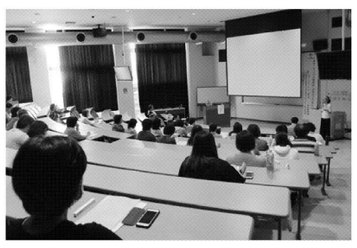
助成事業

今日の社会に最も必要とされる活動に対する助成事業は、当機構の根幹事業です。毎年、子どもの健全育成や東日本大震災と熊本地震などの災害復興支援で被災者を元気づける活動に対し、助成を行っています。

◆平成29年度助成事業（実績の一例）

「埼玉こども食堂　応援キャンペーン2017」事業
［埼玉こども食堂実行委員会］

「益城町よりあいコミュニティー支援プロジェクト」事業
［NPO法人　チャルカ・ジャパン］



「依存症者の家庭で育つ子ども向けプログラム」事業
［日本お母さんに花束をプロジェクト］

顕彰事業

会員の社会貢献活動を顕彰し、今後一層の活動を期待して、年間で最も優れた社会貢献活動に「社会貢献大賞」を授与することとし、平成17年から実施しております。

第11回　社会貢献大賞
「周年記念“安全・安心とふくしの街づくり”」事業
和歌山県遊技業協同組合

第12回　社会貢献大賞
「心臓移植手術を要する県内在住の2人の幼児への支援活動」事業
神奈川県遊技場協同組合

第13回　社会貢献大賞
「公益財団法人　京遊連社会福祉基金創立30周年記念」事業
京都府遊技業協同組合

全日本社会貢献団体機構　TEL.03-5227-1047 http://www.ajosc.org